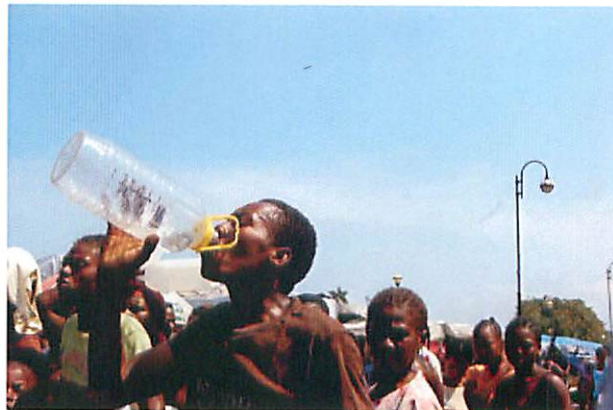
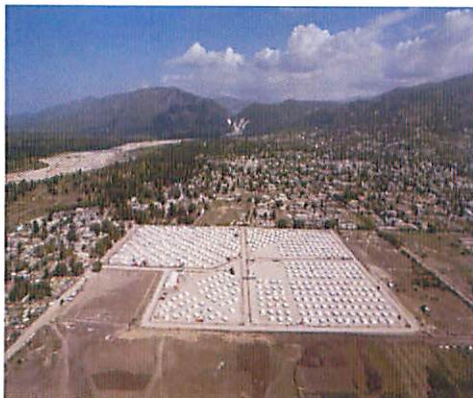


コンサーン・ワールドワイド・アメリカ事務局

## ハイチ地震緊急支援



進捗報告書

2010年10月

当報告書は、1月12日にハイチを襲った地震被災者支援のためにエファジャパンからいただいた3回の寄付を活用してコンサーン・ワールドワイドが行った地震救援事業についてまとめたものです。

### 支出のまとめ

エファジャパンからの寄付の用途	米ドル
緊急給水・衛生事業	\$18,077.99
シェルター事業	\$35,619.15
合計金額	\$53,697.14

※エファジャパン註：大阪府本部からのご支援は全額シェルター事業に使われています。

### ハイチにおける現況および救援活動の概要

1月12日におきた地震による巨大規模の揺れはポルトープランスの全人口280万人（シカゴやマドリード、台北の人口に匹敵）をはじめ、およそ350万の人々を襲いました。

ハイチ政府は、死者222,570人、けが人300,572人と発表しましたが、本当の死者数が明らかになることはないだろうといわれています。

18歳未満の子どもたち150万人がこの地震により直接的・間接的な被害を受け、そのうち約72万人は6歳から12歳の子どもたちでした。

#### 退去と移住

- ・移住のピーク時には、約230万人が家を離れ（失い）、そのうち子どもは302,000人含まれていました。
- ・150万人は被災地のあちこちに自然発生的にできた落ち着き場所に住みつき、そのうち子どもは309,000人と見積もられています。
- ・ピーク時では、1300以上の避難キャンプが自然発生的にできていたことが、被災者キャンプ調整事務所やキャンプ運営クラスターの調査によって明らかにされました。
- ・地震後は、604,215人がポルトープランスと西部地域を離れました。160,000人はポルトープランスを出てドミニカ共和国との国境地帯に移ったと推定されています。

#### 破壊の状況

- ・188,383の住宅が崩壊もしくは激しい損壊を受け、105,000軒が全壊となりました。大統領府や国会議事堂、大聖堂、主要な政府建築物も壊れ、政府、行政、経済インフラ全体の60%が打撃を受けました。
- ・地震の影響を受けた学校は4,992校で、これはハイチにある学校の23%に相当します。この80%に相当する3,978校は一部損壊か倒壊の被害を受け、地震のあと閉鎖しました。

- ・ポルトープランスの学校の 80%と、南県、西県にあった学校の 60%が倒壊もしくは損壊しました。
- ・8つの病院は全壊し、22の病院が深刻な損壊を受けました。地震の影響を受けた3県の病院49のうち半分以上が壊れたということになります。これら30の病院の再建を急ぐ必要が指摘されています。
- ・この地震で失った損失は総額70億ドルにもものぼると見積もられています。これは2009年のこの国のGDPの120%以上にも相当します。
- ・妊婦や出産年齢にある女性の750,000人もがこの地震の影響を受けました。このうち妊婦はおよそ63,000人おり、震災以降毎月7,000人の乳児が生まれています。
- ・この地震によりハイチのGDPは70%も減少しました。

### 現在の状況

6月から台風シーズンが始まり、今の緊急のニーズは住む場所のない人々のためのより耐久性があり丈夫な仮設住宅です。我々はこのニーズが深刻であり事態は急速に悪化するものと認識しています。コンサーン・ワールドワイドでは、これから全ての活動に災害リスク削減対策を組み入れていきます。専門家を全事業地に派遣し、各々の地域に潜む最大の脅威を調べ、それらを改善する具体策を報告させていく予定です。その間、避難キャンプでは二次被害削減のための活動（排水溝掘り、土地を高くする）を行って洪水や雨に対する脆弱点を補強したり、非常用備蓄を準備するなどしています。

一方、大統領府においては、大統領直属の委員会と国連代表者、国際人道援助機関などが移住計画と再定住政策について協議を続けています。

### コンサーン・ワールドワイドの対応

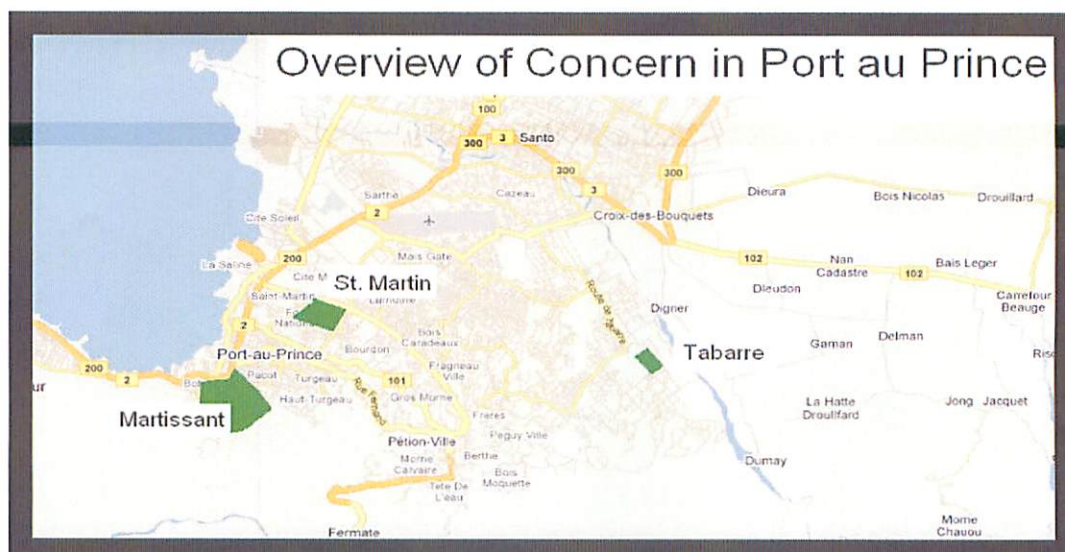
コンサーン・ワールドワイドは1994年からポルトープランスの、とりわけ極貧地帯で地域に密着した活動を行ってきました。地震がおきたときには、暴動が多発したサンマルタン地区とマルテサン地区で活動していました。地震後6ヶ月間で、コンサーンは11万人の被災住人に対し、水供給、衛生、キャンプ運営、避難所、生活物資、教育、栄養、賃金労働提供、現金配給、心理援助など様々な活動を行ってきました。

### 支援の対象者

エファジャパンからの資金援助は、大ポルトープランス行政区を支援対象地として選定しました。ここは地震以前から深刻な困窮状態にあり、建築物が脆弱であったため住宅やビルが激しく倒壊した場所です。加えて、地震以前からコンサーンがこの地で長年取り組んできた大規模な平和構築活動が順調に進んでいたため、この地域とは非常に良好な関係を築いています。

さらに具体的には、自治労大阪府本部の資金はタバール地区（コンサーンがタバール・イサ・キャンプを運営している場所）で必要とされている仮設住宅建設のために使用させていただきます。タバール・イサは、そもそも地震直後にブルドン溪谷に自然発生的したキャンプ配置が大変危険な状況であったため、4月17日から29日にかけてそこから移動してきた2500人の再定住地として指定された区域です。新たに外からやってきた住民と、受け入れ側住民との間で生じがちトラブルを最小限におさえるために、タバール・イサの住民にだけでなく、その近隣にあたるギャレット・グリフィン地区やギャレット・ボーデン地区にたいしても同様の支援を提供することになりました。

### 支援対象地



## エファ・ジャパン資金によるコンサーンの水と衛生事業



震災後の緊急時には、飲料水や衛生保持のための水がほとんどない状況でした。地震の前からあった水道システムの被った被害はさほど大きくなかったのですが、そもそもハイチの人口に対して基本的ニーズを満たせるような代物ではなかったのです。水の供給とあわせて問題となったのが衛生設備の不足でした。避難民が押し寄せた地域では屋外排便が主流となり、それに伴った衛生上のリスクが広まっていきました。さらにもっとひどい場所では、親戚のいる避難所を探しているうちに自分の家に戻ることができなくなったり、少しでも空いているスペースをみつけては避難場所として住みつくようになりました。それらは自然派生的キャンプと呼ばれています。

震災の生存者に癒しと希望をもたらすための支援にと、2010年4月にエファジャパンから寄付金 18,077.99 ドルがコンサーン・ワールドワイドに託されました。この初動資金はコンサーンが実施したポルトープランスでの「水と衛生事業」に使用させていただきました。

### 概要

水と衛生事業では、ポルトープランスのサンマルタン地区とマルテサン地区に住む登記住民およびキャンプ避難民あわせて 58,380 人を支援することができました。コンサーンが2月中旬から給水活動を行ってきたこの2地区には、10立方メートルの容量をもつ袋タンクを16台（大規模サイトには2台づつ）を設置しました。各々のタンクは安全に維持するため木箱に収納し、住民からなるキャンプ運営委員会に鍵を管理してもらっています。現在これらのタンクは、コンサーンと契約した給水業者の水トラックにより1日2回の頻度で補充しています。平均すると、支援サイト一か所あたり一日330立方メートル、一人当たり5.6リットル、人口密集地域でも一日一人あたり平均5リットルを供給しています。ま

た、人々が十分な水を確保できるように、ポリタンクを一世帯につき2個ずつ配布しました。

衛生的な水を供給できる業者を確保できている限り、水の浄化タブレットを配布する必要はないと考えています。しかし、コンサーンは現在、塩素消毒水を用いて袋タンク内を洗浄し、十分清潔な状態で水を汚染することなく溜めておけるように努めています。しかし、想定外の事態で水質が低下したり水供給源が変わったりしたときに浄化剤を配布する必要性が起こらないとも限らないので、これからも引き続き水質を観測していくことにしています。

また、水タンクをきちんと管理し人々が公平に水を利用できるよう、避難キャンプの住民に賃金を払い、水タンクの保全と朝夕の水補給時の業者への支払い管理を委託しています。

#### **関連する諸活動**

現在までにコンサーンは、衛生キットを計16,439セットと、ポリタンクを28,781個配給してきました。避難キャンプで日用品の配給を受けるには、キャンプ住民が自治運営する登録委員会にあらかじめ登録を行い受給資格カードを発行してもらうようにしました。衛生キットには、タオル2枚、歯ブラシ2本、歯磨き2本、抗アレルギー性石鹸1ボトル、トイレットペーパー2ロール、低アレルギー石鹸2個、シャンプー1本、くし2本、衣料用洗剤1箱、物干しひも10メートルが入っています。

これらの配給と並行して、コンサーンは予め訓練を受けたサンマルタンの青少年ボランティアとマルテサンの平和委員会メンバーのネットワークを通して衛生教育キャンペーンを実施しました。彼らはコンサーンの水衛生専門家や保健スタッフから訓練を受けて、水の扱いと保管、手洗い、HIV（エイズ）予防などに関する重要なメッセージを広める役割を果たしました。

## 自治労大阪府本部資金によるコンサーンのシェルター事業



1回目の資金提供に続き、2010年7月に20,524.16ドル、同年10月には15,094.99ドルのご寄付を自治労大阪府本部からいただきました。ポルトープランスの劣悪な避難所環境を憂慮し、これらの資金はシェルター事業のために使用させていただくことにしました。この事業は、自然派生的にできた避難キャンプや再定住指定用地で暮らす国内避難民に対しより快適な暮らしを提供するものです。

### 活動内容とこれまでの成果

自治労大阪府本部からの資金は、タバー地区での仮設住宅の建設のために使わせていただきます。これは臨時のものではありますが、家族がいずれ恒久住宅に移るか、あるいは元の家に戻れるまで過ごすことができる耐久性のある頑丈な構造です。仮設住宅に関する国際基準や、その他の避難所関連者との調整のうえ、コンサーンの仮設住宅は現地の技術者や労働者によって大量建設が可能な標準仕様のプレハブとしました。これは国際的な基準（大きさ、台風や地震への耐久性）に合致し、さらにハイチの住民に受け入れられる特徴（小さなベランダつき）をも考慮したものです。

仮設住宅の材質は耐火性で、亜鉛アルミの屋根板、セメント生地の壁、地震や台風、シロアリに対する耐性もあります。鋼鉄の固定部は非常に重要で、万一強い嵐がきて囲い部分を損壊しても、中心構造は修復可能な状態に残るようになっています。床材はガレキ破片などをコンクリートで覆い、さらに純粋セメントとセクションごとにとりはずし可能なフレームを使って仕上げます。さらに重要な点は、洪水被害を軽減するために高く盛り上げた土地の上に住宅を建て、必要に応じて特別なニーズを考慮した仕様（ドアの幅、傾斜路、洗い場の椅子）を取り入れます。

仮設住宅が全て完成すれば、次に世帯用の安全クッキング・スペースを備え付ける予定です。このスペースも仮設住宅と類似の耐火性資材を用い、衛生的な表面素材と排水管を取り付けます。床はガレキ破片のうえをコンクリートでカバーし、セメントで覆います。環境負荷への配慮と避難家族の経済力を考慮して、燃料効率性の高いエコ・コンロを現在調達中です。もしコンロを組み立てる前の部品の状態のまま調達できれば、ハイチ国内で組み立てることができるので、タバー地区でコンロの組み立てを生計向上事業として立ち上げることも計画しています。さらに、尿排管トイレとシャワーを仮設住宅の各世帯に設置していく予定です。このトイレはシャワーや尿などの下水を集めてろ過フィールドになるものです。糞便は別コンテナに集めて堆肥として利用するのです。

コンサーンはタバー地区に仮設住宅を約 1200 戸建てる予定で、到着予定の大量の資材を待っています。その間、既にタバー地区に 13 戸の仮設住宅を建設しました。コンサーンの評価基準により、避難民の中でも非常に困窮状態にあると判断された家族が優先的にそこで暮らし始めています。

## ジェンダーおよび分野横断的課題

### HIV とエイズ

HIV とエイズに関する啓蒙活動を非常に重視しており、コンサーンの全活動に HIV 予防の訓練を受けたスタッフを配置しました。組織内部全体に支援システムや規則を作り、コンサーンのスタッフは全員 HIV やエイズに関する危険性を周知するようになっています。

### ジェンダー

全ての仮設住宅が完成したら、各世帯に布仕切りを配り、男性と女性が別々の空間で寝起きできるように配慮します。また、家長が女性の世帯や、妊婦や授乳中の女性は仮設住宅に優先的に入居できるようにしています。コンサーンがミーティングを開くときには地域の女性メンバーが必ず参加し、「土地検証委員会」はできる限り男女バランスがとれるように気をつけています。またコンサーンは、全てのキャンプ住民が安全な生活環境で暮らせることを目指しています。保護団体や性被害専門機関などと連携して性被害者が医療や心理社会的支援を受けられるようにし、性被害を受けたら専門医につなぐことのできるネットワーク情報を全てのキャンプ住民に知らせる活動もしています。女性ボランティアで構成する女性社会保護委員会というものも発足させ、各キャンプに女性支援ネットワークを築き始めています。



## 人権

「コンサーンの活動参加保護指針」というものを作成しました。これは、事業の参加者が搾取されないように最大限の保護を保障しようとするもので、コンサーンのスタッフの責任や期待される態度・言動のあり方を明確にしました。また、受益者、パートナー団体、スタッフのために、効果的で利用可能、かつ報復を許さない「安全な苦情提起と対応のメカニズム」を築き維持していくことを決めました。苦情対応メカニズムはタバー地区にてテスト試行しているところで、翌月には全てのキャンプに実用を広げていく予定です。

## 環境

市内のあちこちに自然派生したキャンプの不衛生と排泄物管理の欠如が、いま最大の環境問題をもたらしています。これまでのところ、コンサーンが管理しているキャンプは公衆トイレとシャワー室が設置されています。しかしこれらのキャンプを閉鎖するときには公衆トイレの処理が重大な問題になるであろうと政府や衛生専門機関から指摘されています。現在のところ、我々はキャンプの病気リスクを最小化するべく、賃金労働プログラムを通して、清掃キャンペーンを展開しています。排泄物を集め、指定された場所に安全に埋めるように取りはかっています。これらの取り組みにより、キャンプで生活する人々が不衛生な状況にならないように危険レベルを下げていく役割を果たしています。

## 主な制約事項

これまでのところ、仮設住宅のモデルや試作用の資材は、アメリカから運ばれ現地業者を通じて供給されました。しかし、大量建築のためにはとても大規模な資材輸送が必要となります。仮設住宅建設に不可欠な木材は国際赤十字の調達ルートに頼っているため、入荷時期は資材の入手可能性と優先順位に大きく左右される状況です。また、現地労働者を訓練しながら建設を行ったときは工具類の不足が支障となりました。それらの反省を踏まえ、2010年8月に最初の木材が到着した際には、適当な作業場と必要な工具を用意して大量工事にすぐ着工できるように準備を整えました。



## 成果とまとめ

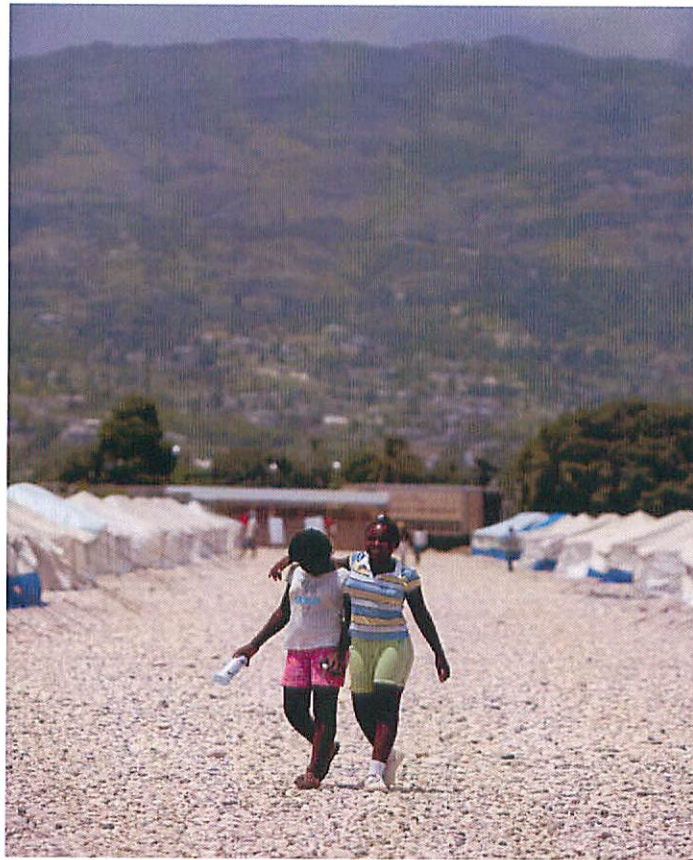
エファジャパンからいただいた寄付金の合計 53,697.14 ドルは、1月の大地震で被災をおった人々の生活にとっても大きく前向きな成果をもたらしました。衛生キットによって被災者は人としての尊厳を維持することができましたし、ポリタンクは水の確保を可能にしました。重要な仮設住宅の資材も、資金の提供や、コンサーンに対する裨益者からの信頼、および国際支援業界の協力によって、すみやかに調達されてきました。自治労大阪府本部から支援のお申し出をいただいたおかげで、安心して仮設住宅の建設を遅滞なく着手することができました。このご協力がなければ、コンサーンの支援対応力はもっと弱いものとなっただけでしょうし、我々の支援地域もますます悪化する環境の中でうまく協力し合うことはできなかったと思います。家族の頭上に屋根ができたとき、大阪府本部は人間の基本ニーズ、つまり住む家と安全と清潔な環境を人びとに与えたといえます。しかしながらさらに重要な点は、地震によって全ての所有物を一瞬にして奪われた被災者にとって、仮設住宅は被災後初めて手に入れることができた所有物であるという意味ではないでしょうか。



建設中の仮設住宅



弱者優先の選考基準で入居した家族と仮設住宅



ハイチ地震の救援と再建を願い  
エファ・ジャパンを通じて寄与された偉大な貢献に対し  
新たな生活の一步を歩もうとするハイチの人々に代わって  
コンサーン・ワールドワイドから心からの感謝を申し上げます。